

北社会ニュース 第21号

2006-3-15

発行： 鈴木壮夫

和賀井敏夫先輩、学士院賞ご受賞誠にありがとうございました。

毎朝、そばを打ち終わってから新聞を読みますので、同期の原さんからの電話でご受賞を知りました。聞き耳を立てていた女房がすぐ新聞を打ち場に持ってきました。拝読して、不遜な表現かもしれませんが、日頃から尊敬し、目標とさせていただいているずうっと年長の「身内」の方のご受賞だと心から嬉しくなりました。

私にとって和賀井さんは「先輩」よりも正直に言いますとにこにこしてやさしい「身内」の方なのです。北社会の運営について、ここ2年間励ましとご援助をいただきました。

「会員は当事者たれ！」という私の希望にもご理解いただき、激励を綴った年賀状もいただきました。帰宅して、青山史朗先輩が発行された「百年の逸材」の中の「超音波診断の創始者」を数回通読しました。その都度、身が引き締まりました。文中、旧制二高・明善寮時代、戦時中の締め付けから二高の自治の伝統を守るべく尽力し「この二高の尚志の教育や明善寮の寮生活の体験が、その後の人生にも研究生活にも大いに役立った」と記述されております。和賀井先輩の地道な努力、謙虚な態度は多くの後輩に感銘を与えております。北社会にご出席いただきますと、会も盛り上がります。今後もよろしくお願い致します。このたびはおめでとうございます。（3月14日・夕方）

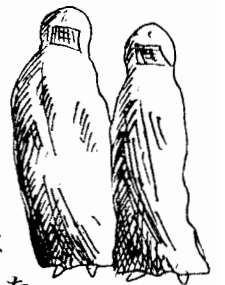
(1) 本日、第240回北社会

宮川彰彦氏（高7回）に「イラクのカルチャーを振り返って」を講演いただきます。12日、バグダッドでテロ攻撃が相次ぎ少なくとも市民ら56人が死亡したと報道されている。イスラム教シーア派とスンニ派の対立が深まっている背景から、報復や挑発の可能性が高いと伝えられている。前号にも書きましたが、連日報道されている割には「イラク」のことも「コーラン」のこともほとんど理解していない会員が多いことも事実でしょう。

宮川先輩には周到なご準備をしていただきました。しっかりお聞き下さい。

『妻のイラク紀行』 —余談です—

36年前、1970年7月イランからアフガニスタンへの途中、バグダッドに1週間滞在したそうです。当時、街の中に女性は少なく、たまに見かける女性はチャドルという黒いベールをすっぽり被り、眼の部分だけが網目状になっていた。市場で出会った女性に写真撮影を頼み、物陰でチャドルの中を見せてもらった。当時は世界的にミニスカート全盛でその女性も色彩あざやかなミニスカートを着用していた。女性だからこそ出来たことだった。王国であるイランと比べ、貧しくて少し殺伐とした感じだった。オアシスの町もイランの方がササン朝ペルシアのなごりもありイラクよりも豊かそうに見えた。早く、通り抜きたい国・地域とその時は思っていたそうです。



(2) <お聴きしたい講師・お聴きしたいテーマ>アンケート結果

先月、首題のアンケート用紙を配布して、8人の会員からご意見が寄せられました。内容は下記通りです。参考にさせていただきます。

<お聴きしたい講師>

西澤潤一氏 和賀井敏夫氏 常磐新平氏 橋本保雄氏 佐藤力氏

宇田宏氏 柴田徹一氏（元東海大学教授） 田中宏明氏（田中酒造店主）

伊藤強氏（東北大卒・元レコード大賞選考委員長） 早坂昭夫氏 原芳道氏

<お聴きしたいテーマ>

- ・年間のテーマ、例えば健康・食の安全・世界一周見聞録を考え、決めてから講師の方々をリストアップしてみる。
- ・先端技術
- ・天才論・サービス・大学論
- ・これから《デジタル》家電はどうなるの
- ・こんな世界遺産を見たよ

→会員の皆さん、思いついたらどうぞ世話人に話し掛けて下さい←

(3) ヒッポファミリークラブ／川越市説明会

伊藤悦敬氏（高18回）が国際交流部の参事をされている言語交流研究所の会合に2月23日初めて参加してみました。伊藤氏には昨年6月「多言語の世界を開く・ことばの不思議」と題して講演いただきました。川越市内でもよくポスターを見かけます。店の定休日に説明会が開催されるというので参加しました。木曜日の午前中だったせいか、初参加者は私一人だけだったようです。

「伊藤悦敬氏と同窓」と受け付けで話し、会場に入りました。おばさん・おじさん幼児達合計20-30人位が集まっていました。

約1時間半、講演とか体験談を拝聴しました。ごくごく普通のおばさんがクラブの活動を通してごくごく自然に方言のように多言語を話せるようになることが理解できました。私は時間の余裕なく、入会はできませんが、会員の皆さんが肩の力を抜いて、普段着で多言語を楽しんでいるお付き合いは善いことだと思いました。4月9日（日）25周年記念フォーラム（東京国際フォーラムホールA）のぞいてみたらいかがでしょうか。損はさせませんよ！

(4) 余計なお世話ですが推薦図書

曾野綾子著「夫婦、この不思議な関係」－ワック株式会社発行－933円＋税
（結婚生活ほど理不尽なものはない。だからこそ面白いのだ。）という内容です。